

令和5年度岐阜県芸術文化顕彰受賞者

あさい
朝井 リョウ 小説家

- ・平成22年に「桐島、部活やめるってよ」で小説すばる新人賞を受賞しデビュー。平成25年に同作が映画化。
- ・平成25年に「何者」で直木賞を受賞。戦後最年少、男性としても最年少の受賞で、平成生まれ初の直木賞作家となる。平成28年に同作が映画化。
- ・令和3年に「正欲」で柴田錬三郎賞を受賞。令和5年11月に映画化。
- ・平成27年から現在まで、岐阜市立図書館が主催する「めざせ直木賞作家！ぼくのわたしのショートショート発表会」にて中高生の短編小説を講評するなど、県内での活動も活発に行う。



提供：文藝春秋

あんどう たくみ
安藤 工 陶芸家

- ・窯元の名門「仙太郎窯」の家に生まれ、加藤孝造氏の指導の下、志野の追求を始め、令和5年に志野の分野で多治見市から無形文化財保持者に認定された。
- ・平成23・25年には日展特選を受賞。
- ・設立60周年を迎えた、公益社団法人美濃陶芸協会の第5代目会長として、展覧会や講演会などの陶芸イベントを主催し、美濃陶芸と地場産業である陶業(とうぎょう)の発展振興を目指して活動を続けている。



ふなさか よしすけ
船坂 芳助 版画家

- ・昭和45年に東京国際版画ビエンナーレ展にて京都国立近代美術館賞を受賞。昭和51年には文化庁在外研修員としてイギリス、アメリカにて制作活動をし、国内外の主要な版画展で受賞している。
- ・作品は東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、文化庁、大英博物館、パリ国立図書館、フリーア美術館（アメリカ）などに收藏されている。
- ・令和5年には、出身地の飛騨市にて版画展やワークショップを開催するなど、県内の文化振興にも貢献している。



令和5年度岐阜県芸術文化奨励受賞者

えな たいこ 恵那のまつり太鼓

- ・地域住民への恩返しと、利用者の療育を目的に、たんぽぽ作業所（恵那市）の利用者で結成し、長年の活動を通して障がい者の社会参加に取り組んでいる。
- ・毎年開催する「恵那たんぽぽ作業所まつり」（たんぽぽ福社会主催）で演奏しているほか、市内外の神社祭礼や地区のお祭り・イベントなどで、演奏を披露するとともに、日本太鼓全国障害者大会では20年連続出場した団体として表彰されている。



きたがわ ちさ 北川 千紗 ヴァイオリニスト

- ・海外の難関国際コンクールにおいて多数の優勝と上位入賞を収め、大垣市文化奨励賞に続き、平成26年に大垣市民大賞を受賞。
- ・若手音楽家の国内最高峰とされる日本音楽コンクールにおいて、令和2年に第1位及び聴衆賞を受賞。
- ・令和4年には大垣市のスイトピアセンターでコンサートを開催するほか、幼少期より地元音楽祭に参加し、毎年サラマンカホールにて演奏発表を20年以上続けるなど、県内での音楽活動による地域貢献を果たしている。



©Kei Uesugi

しみず ようすけ 清水 陽介 チェリスト

- ・6才からチェロをはじめ、14歳で単身ハンガリーに渡欧。現在はハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学にて研鑽を積んでいる。
- ・ハンガリーのポッパー国際チェロコンクールでは、平成25年に10～13歳部門で優勝、令和3年に17～20歳部門で優勝し、2部門を制覇。
- ・岐阜県とハンガリーの友好関係の場での演奏をはじめ、令和4年、新県庁舎前の「ぎふ結のもり」初の音楽祭へ出演するなど、県内での音楽活動による地域貢献を果たしている。



令和5年度岐阜県芸術文化奨励受賞者

ひはら ようこ
日原 暢子 箏奏者

- ・九州系地歌箏曲家 岩田柔柯に師事。二十五絃箏を故二代野坂操壽に師事。
- ・令和4年度文化庁芸術祭音楽部門新人賞を受賞し、令和5年3月には笠松町民特別奨励賞を受賞。
- ・サランカホールでのコンサート開催や、母校の笠松小学校では、平成19年から15年以上にわたり箏の体験授業を行うなど、箏の魅力を伝える活動を実施し、地域貢献を果たしている。



みやはら つよし
宮原 剛 日本画家

- ・名古屋芸術大学在学中に史上初の学生で日展初入選・特選受賞という鮮烈な受賞歴から日本画家としてのキャリアをスタートさせ、令和2年に2回目の日展特選を受賞。
- ・岐阜日本画協会の理事長として会派を越えた日本画の普及、県内での個展、グループ展を多数開催するなど、日本画の魅力の発信に尽力している。

